



影山 摩子弥



1959年、静岡県に生まれる。
早稲田大学商学部卒
〈専攻〉経済システム論、経済原論
〈現職〉横浜市立大学教授、横浜市立
大学CSRセンター長、横浜市立大学
生協理事長、キャリアアカウンセラ―

前は、読者の方から
出た質問にお答えするために、
まず、ステークホルダーという
用語の解説を行いました。質問
とは、企業が取り組むべきCSR
の具体的内容は、どのようにし
て決ってくるか、でした。今回
は、その質問にお答えしようと
思います。



簡単に言えば、次のようなこと
が重要になります。

- ① 重要なステークホルダーが何を
求めているか
- ② 企業の限られた資源を用いて、
求められることに応えうるか
- ③ 費用を超える効果がえられるか

コンプライアンスを例にとりま
しょう。コンプライアンスは、狭
い意味で用いられる場合は、「法
律を守る（法令順守）」という意
味で使われますが、近年では、「法
律だけでなく、常識や倫理観に照
らして守るべきものを守る（倫理
法令順守）」という意味や、「社
会の要請に応える」という、
CSRと重なるほど広い意味に使
われています。特に、法律以上の
ことを行うという、2番目の用法
が一般的です。

企業としては、「法律を守って
ればいいじゃん、それ以上のこと
なんて大変だ」というのが本音で
しょう。しかし、みなさんはどう
でしょう。企業は、法律以上に、
過労死やうつを避けるべく雇用条
件を整備したり、製品の安全性を
確保したり、環境保全をしたりす
べきだと思いませんか？

みなさんが、企業にとって重要な
ステークホルダーであれば、企業は、
法律以上のことに取り組む必要が出
てくるはずですし、実際そうなって
います。ですから、「法律さえ守って
ればいいじゃん」、というのでは、
効果的なCSRはできないんです。
ステークホルダーに軸足を置いて
取り組み内容を見据えないといけな
いと言いますが、CSRを問題とする観
点が指摘してきた点なんですね。

もちろん、従業員というステーク
ホルダーが給料を上げてほしいと思
っている、青天井にはできません。
企業が持つ資源は、有限です。限ら
れた資源を有効に生かして、大きな
成果をあげねばなりません。ですら
②と③の点も大事になるんですが、
①を抜きにして、企業の事情や都合
だけで取り組み内容を決めてはいけ
ないんです。では、次回は、また、具
体的事例を見ていくことにしましょう。

* CSRは、「質の良い製品やサービスを提供する」「環境に配慮する」など、企業や行政機関、
協同組合、NPOなどすべての組織が社会に対して負っている責任です。

今月号いかがでしたか？ これまでの号も含めて感想をお寄せください。
Eメールのみでの受付となりますが、たくさんの感想をお待ちしています。

アンケート内容

- 1. 月刊 リサイクルデザインで取り扱ってほしい事
- 2. 今月号の感想

メールの件名を『リサイクルデザイン読者アンケート』とし、アンケートの
質問番号の後に回答をお書きください。お名前(フリガナ)・郵便番号・ご住所・
年齢・性別・職業をお忘れなく。(HPからの方が簡単です) 抽選で10名様に
りくみちゃんシャープペンとノートのセットをプレゼントいたします。

読者アンケートに
ご協力を！
メールを
お待ちしております

Eメール
mail@recycledesign.or.jp

HP